

抗悪性腫瘍薬が誘発する遅発性悪心の発症におけるヒスタミン H₄ 受容体の役割について特異的リガンドを用いて検討した。その結果、遅発性悪心(特に食欲不振)の発症には H₄ 受容体を介した視床下部内での IL-1 β の産生増加が重要であることに加え、H₄ 受容体遮断薬がこれまで治療薬として使用されてきたステロイド剤と同様の治療効果を有することが判明した。以上のことは、H₄ 受容体を標的とする新たな遅発性悪心治療法の端緒を開いたと考えている。